

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第 103 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 103 回 : 2020 年 7 月 29 日 (水) 13:30~16:30

2. 場所 Web 開催 (Webex)

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 橋本幹事, 佐藤 (吉), 高橋, 牟田, 岩谷, 池田, 佐藤 (輝), 三橋,  
小森, 塩田 (11 名)

(常時参加者) 友澤, 藤崎, 笠原, 不破, 丹野 (5 名)

(委員候補) 菅原委員候補

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-103-1 第 102 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-103-2 人事について

P4SC-103-3-1 内の事象 L1PRA 標準 統合性能化 基準案

P4SC-103-3-2 内の事象 L1PRA 標準 統合性能化 指針案

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 11 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。  
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 102 回議事録の確認

資料 P4SC-103-1 を用いて, 第 102 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡  
いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-103-2 により, 菅原委員候補 (関西電力) の委員選任が承認された。

(4) L1PRA 標準統合性能化

資料 P4SC-103-3-1 及び 3-2 により, L1PRA 標準統合性能化案について検討した。主な議  
論は次のとおり。

・全般事項

- －基準と指針の位置づけとそれによる引用や規定のあり方に関してポジションペーパーにまとめておく。
- －指針等での詳細規定の検討においては、機微な情報を取り扱う場合も考えられることから、限定した有志メンバによる作業会なども今後考慮していく。
- －下記以外の議論範囲でのコメントについては全て標準に反映する。

- ・基準 6.2.1 における POS の出現確率の規定は、評価の目的に応じた年当たり或いは POS 当たり等の評価単位の設定が本来の趣旨であるため、趣旨に合わせて修正する。

- ・指針の解説 1 に基準と指針の位置づけによる引用や規定のあり方に関して追加する。

- ・指針 5.1 の評価の流れは、箇条 2 適用範囲から参照する附属書として整理し直す。

- ・指針 6.2 a) 項の移行リスク例にある「タービントリップ／タービンバイパス」の趣旨を元文献から確認する。

- ・指針 7.1 a) 項の起因事象の分析手法にある「システム別の分析」「既往の PRA の評価事例の分析」について、他の手法と同様の手順を記載するか検討する。

- ・指針 7.1 b) 項の起因事象の確認には出力運転時のみ記載されており、停止時等を追記するか検討する。

- ・指針 7.1 b) 項(4) インターフェイスシステム LOCA において、「運用」の意味するところを明確化する。

- ・指針 7.1 b) 項(6) 従属性を有する起因事象 において、c) 項の従属性を有する起因事象の同定と重複する記載があるため、当該部分の扱いを調整する。

- ・指針 7.1 d) 項の除外基準項目について、ASME/ANS 標準改定案等も参考に扱いを検討する。

- ・指針 7.3 起因事象の発生頻度は、基準の項目構成と齟齬があるため基準に合わせた項目構成に見直す。また、a) 項のタイトルを規定内容に整合させる。

- ・指針 7.3 b) 項(1)において「評価対象プラントの情報」により何を行うかを明確にする。

- ・指針 7.3 c) 項における「期間」は時間割合を示す無次元数であるため名称を見直す。

- ・指針 7.3 c) 項における停止時を念頭にした配管破断の評価規定は、停止時標準等により具体的な事例などあるかを確認し、規定としての扱いを検討する。

(5) スケジュール, その他

次回分科会は 8 月 25 日 PM で web 開催の予定とする。

以上